

今日はベンゲットからロスバニョスへの長距離移動でした。ベンゲットを出るとバギオに入りますが、そこでの渋滞を避けるために、朝5時半の出発となりました。

途中、レストランで朝食をとりました。このレストランは、ゲージにあるおかずやお米を自分で選んでいくバイキング形式でしたが、それぞれの値段が書かれておらず、レジで精算するまで金額がわかりませんでした。フィリピンは日本に比べるとそういった面に関して緩いのだと思います。小畦先生が shiopao と呼ばれている肉まんのようなものを買っていただきました。日本のものとは違い、とても甘いがわでした。以前に食べたソーセージも甘かったので、フィリピンの人は甘い味付けが好きなのだと思います。レストランの外では、ナマズの丸焼きを販売していました。日本では売られていないものなので、とても驚きました。白身魚の味わいだそうです。



ナマズを焼くおじさん

高速道路に入った後、休憩でパーキングエリアに寄りました。そこは、今まで寄ったパーキングエリアの中で規模が一番大きく、ブランド商品なども売っており、日本と似た雰囲気を感じました。ここでは、チョウキンでフィリピンを代表するデザートのアロハロを食べました。アロハロは、このものが一番おいしいそうです。私達はブコの入ったミルク味のアロハロを食べました。アロハロとは、タガログ語で混ぜこぜという意味があり、かき氷とミルクをベースとして、茹でたバナナやウベアイスなどの様々な具材が入ったものです。さながら日本のみつめめのような感じです。バギオの高地から平野部へ来て気温も上がってきたので、とてもおいしくいただきました。日本円で150円でしたが、日本ではこの値段では買えないと思います。また、服もとても安く、500円ほどで販売していました。しかし、ブランド品の値段は、日本と変わりませんでした。このパーキングエリアの隣には、なんと、動物園が設立されていました。野生動物を見たことがあるかという聞き取り調査を行った際に、動物園で見ることができると答えた人が何人かいました。そこで脇岡君と共に、少し期待を込めて、フィリピンワシやフィリピン鹿がいないか聞いてみたところ、ここにはいないということでした。そういった絶滅危惧種は主に、ミンダナオ島にいます。このパーキングエリアには鳩の巣が作られてあり、鳩がたくさんいました。鳩は平和の象徴と言われています。フィリピンの人は平和に対する願望があるのかなと感じました。

高速道路を出ると、一気に車が押し寄せてきました。フィリピンの車線は、あってないようなもので、二車線の道路に両サイドからトラックが入り込んできたために、すごく怖い思いをしました。このような状況で事故が多発するのは当たり前です。フィリピンは交通規制を厳しくする必要があると思います。また、車道に人が立ち、お菓子や、ベルトなどの商品を、通り過ぎる車に売ろうとしていました。この人たちの収入は1日100ペソほどだそうです。高級車がこういった人の前を通りすぎていくのを見ると、フィリピンにおける貧富の差がいかに大きいか、感じさせられます。また、移動中、建設中のビルがいくつもありました。こういった景観は発展途上国の特徴だと思います。

お昼ご飯は、東京東京で食べました。東京東京は、ジョリビーやチョウキンに並ぶ、フィリピンの主

要なファーストフード店ですが、他のファーストフード店と比べると人気がありませんでした。おそらく、比較的価格が高いことが原因だと思います。紅ショウガが不思議な食感でした。大根で作られていたのだと思います。

UPLB には、午後 3 時半ころに到着しました。大学内に入ってから、車で 10 分ほど走ったところに宿泊先のホテルがありました。この大学はとても広い敷地を持っていることがわかります。到着すると 3 日ぶりにデニス先生と合流しました。各部屋に荷物を置いた後、プレゼン発表についての話し合いを行いました。出発前とは、多かれ少なかれ内容が変わりましたが、それぞれの内容がほぼ固まってきました。先生方にあらためてアドバイスをいただき、流れははっきりしたので、最終プレゼンテーションにむけて内容を詰めていこうと思います。あと 2 晩しか準備をする時間がないと思うと、焦りを感じますが、皆でアドバイスを出し合って頑張ろうと思います。

夕食は、大学付近のレストランへ行きました。ここでは、メニューを選ぶためにタッチパネルを使います。日本では、お客様が自ら注文内容を送信することで、お客様が好きなタイミングで頼むことができ、また店員が注文を取りに行く時間も短縮できるというシステムになっており、パネルでの注文を取り入れているレストランも多くあります。しかし、ここでは、注文内容の確認画面を開いた後、店員さんを呼び、店員さんが復唱することで、間違いがないか確認をとるというシステムでした。これでは、タッチパネルを利用しても、効果は薄いのではないかと感じました。



タッチパネルでメニューを選ぶ

ホテルへ戻ったあと、学生で集まり、プレゼンの流れや時間を確認しました。重なる睡眠不足で疲れている様子の方も何人かいました。体調管理も私たちの重要な仕事なので、無理をしない程度に、自分の満足のいくプレゼンが作れるよう努めたいです。